

Fashion

# ファッションに見る平和のムーブメント

ファッションは平和な時代の産物？ それとも現実から逃れるための夢？ 改めてファッションの役割を考えるべく、20世紀モード史と社会情勢の関係を中野香織さんに、最新のランウェイ動向を藤岡篤子さんにレクチャーしていただきます！

ファッション史



講師

**Kaori Nakano**

中野香織さん  
[服飾史家、エッセイスト]

Profile

なかの・かおり ●ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆家に。2008年より、明治大学特任教授。ファッションの歴史から最新の流行現象まで、幅広い視野から研究、執筆、レクチャーを行う。

平和とは、互いの違いを理解し認め合うことで、笑顔で場を共にできる愛と寛容と善なる知性に包まれた状態だと思います。

平和な時代にこそファッションは花開く

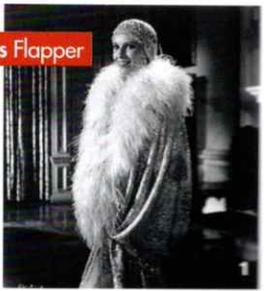
平和の象徴としてまず思い浮かぶのは、1947年に発表されたデウォールの「パー」スーツ(4)です。第二次世界大戦中は物資不足で、節約重視の衣服が主流でした(2)。そうした耐乏生活の後に登場したのがデウォール。生地をたっぷり使った女性らしいシルエツトを復活させ、戦後ファッションの幕を開いた。「ハーバースバザー」のカーメル・

スノウが「まさに革命だわ。これこそニールックよ！」と叫んだエピソードは有名ですよ。

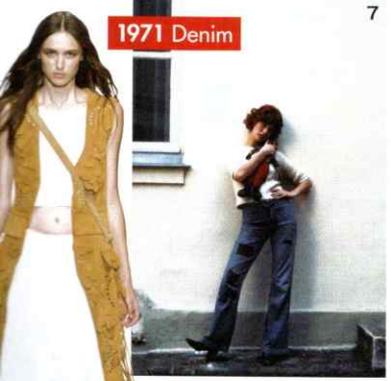
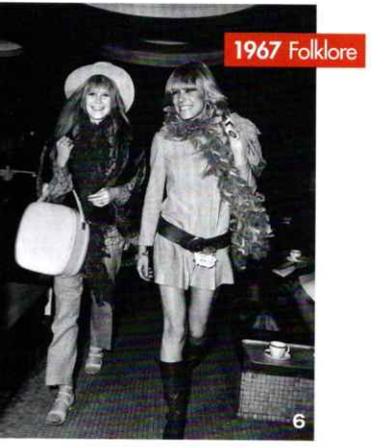
これはオートクチュールの話ですが、'60年代には平和をキーワードにした対抗文化が登場しています。ベトナム反戦運動から生まれたヒッピーです。ラブ&ピースを合言葉に、男女の区別のないルックスを演出し、ファッションではフォークロア(6)やジーンズ(7)が特徴でした。2001年の米同時多発テロの後や今季、フラワートイルドレン調が、流行として復活しているのも興味深いですね(8、9)。

また歴史を俯瞰すると、好景気の時代に新しいファッションが現れ、さらに景気を押し上げるといふ現象が見られます。ジャズエイジのアメリカで流行ったフラッパー(1)や'60年代のミニスカート(5)が代表。どちらも若々しくて、ちよつと浮ついた感じですが、平和な時代だからこそファッションといえます。

逆に、戦時下で生まれたものも多い。例えばトレンチコート。特徴的なディテールはすべて第一次世界大戦の塹壕戦用に工夫されたものです。カルティエの時計「タンク」は戦車が着想源ですし、迷彩柄は軍用機の開発品。テラードジャケットも軍服が起源。戦闘中はつめ襟にし、平和が訪れると折ってボタンホー



1'20年代が舞台の映画「華麗なるギャツビー」(1974年)より。ヒロインを演じたミア・ファロの華やかな装いに注目。2戦時下の「ハーバースバザー」(1943年3月号)。モデルはローレン・パコール。3美週刊誌「ピクチャー・ポスト」(1946年8月号3日号)の表紙を飾ったビキニ姿のモデル。4クリスチャン・ディオールが発表した「コロル」ラインが新時代のファッションに。



5 60年代を象徴する「ミニスカートの女王」ツイッギー。6 ヒッピー風のポーホーリックに身を包んだアニタ・バレンバーグ(右)とマリアンヌ・フェイスフル。7 ジーンズ姿のジェーン・パーキン。8 ドルチェ&ガッパナの2002年春夏コレクションより。鮮やかな花柄がハッピームードいっぱい。9 アルベルタフェレティの2015年春夏は、ロマンティックなボヘミアンスタイル。